

横浜市とローソンが包括連携協定を締結！

～「みんなと暮らすマチ」をもっと幸せにするために～

横浜市（市長 中田 宏）と株式会社ローソン（東京都、代表取締役社長 CEO 新浪 剛史）は、平成21年5月21日（木）、「環境保全、地球温暖化対策の取組」、「子ども、青少年の育成支援、地域の安全・安心の確保に関する取組」、「災害対策に関する取組」、「観光、特産品など地域ブランドの振興、生活文化、住民サービスの向上、その他地域の活性化に関する取組」などにおいて相互の連携を強化し、横浜市内における地域の一層の活性化に資する『包括連携協定』を締結します。

今後、本協定をベースとして、それぞれの強み活用しながら、「みんなと暮らすマチをもっと幸せにする」取組の検討を進めていきます。

経緯

横浜市では、公民連携に関する相談や提案を受け付ける窓口「共創フロント」を設置しています。

そこで、株式会社ローソンから、ご提案をいただき、検討を進めた結果、「包括連携協定」の締結を行うこととなりました。

締結式のご案内

包括連携協定の締結にあたり、次のとおり、締結式を行います。ぜひ取材をお願いいたします。

日 時：5月21日（木）13:20～13:50（受付開始 13:00）

会 場：横浜市役所2階応接室（横浜市中区港町1-1 JR関内駅（南口）徒歩すぐ）

出 席 者：横浜市長 中田 宏

代表取締役社長CEO 新浪 剛史 氏

調印式次第：・概要の説明

- ・調印
- ・写真撮影
- ・中田市長からの説明
- ・新浪社長からの説明
- ・質疑応答

※出席される記者の方は、お手数ですが、5月20日（水）18時までに①社名②記者名 につきまして、共創推進事業本部までお申し込みいただきますよう、お願いいたします。

【申込先】横浜市共創推進事業本部 会見担当：野上 豊倉

Eメール ts-kyoso@city.yokohama.jp 電話：045-671-4396

（裏面あり）

主な取組内容

(1) 地球にやさしいグッとくるマチ

全国自治体初

【主な取組】ローソン限定で、カーボンオフセット付き「はまっ子どうし」を販売

県内ローソン全店舗で、「はまっ子どうし」を販売します。1本の販売（市内店舗分※のみ）につき、1kgのCO2オフセット（排出権）を付けて、本市のオフィシャルウォーター「はまっ子どうし」の環境付加価値の向上を図ります。（オフセット実施時期は5/26～7/31）

※市内店舗数：5月1日現在 216店 神奈川県内店舗数 484店



そのほか、ローソン店舗への太陽光発電の導入、道志水源林の保全活動への協力など、環境保全、地球温暖化対策に資する取組について、検討を進めていきます。

(2) 人にやさしいホッとするマチ

コンビニ業界初

【主な取組】AEDの設置をすすめ、地域における救急活動を推進します。

市内ローソンの4店舗で実験的にAEDを設置します。（6月1日以降随時。ハッピーローソン山下公園店、横浜市民病院前店、都筑茅ヶ崎中央店、洋光台店）

今後は、各自治会、商店街との連携を深めながら、ローソン店舗にAEDを随時設置するとともに、ローソンと地域が協働して行うAED取扱訓練等を横浜市が支援し、地域における救命活動の普及・救命率の向上を図ります。

災害時に連携しながら、食料品や日用品を調達します。

「災害時における生活必需物資の供給協力に関する協定」を、包括連携協定と同日（5月21日）付で締結します。

そのほか、ハマハグ（子育て支援）への協力、障害者授産施設製品の販売など、子ども、青少年の育成支援、地域の安全・安心の確保、災害対策に資する取組について、検討を進めていきます。

(3) 未来を紡ぐ元気なマチ

【主な取組】横浜にちなんだ商品の開発・販売

本連携を記念して、ナポリタン弁当をはじめとした「ホテルニューグランド発祥・監修メニュー」を展開します（5月26日～6月下旬まで、ナポリタン、プリンアラモード、ドライカレー、ハンバーグサンド各1品を関東1都6県で展開）。

横浜開港150周年記念事業を盛り上げます。

開国博Y150の期間中、マザーポートエリア内で、観光のご案内、周辺の道案内、トイレ利用や、たねまるバッジを着用した150周年記念事業のPR、キャンペーン・オリジナル商品の販売などにより、横浜開港150周年記念事業を盛り上げます。

そのほか、市内大学生との連携による共同プロジェクトの展開、観光、特産品など地域ブランドの振興、生活文化、住民サービスの向上、その他地域の活性化に資する取組について検討を進めていきます。